



三重とこわか国体 第76回国民体育大会 2021年9月25日(土)~10月5日(火)



三重とこわか国体 (名張開催 正式競技)

弓道

日本古来の武芸の一つ、弓術が起源である「弓道」——。
弓を使い自らの感覚と集中力を頼りに的を狙います。日々の練習では技術だけでなく、物事に動じない「不動心」も養うことができるのだそう。
本市を会場に、9月に開催予定の「弓道」の魅力をご紹介します。

☎ 国体推進室 ☎ 63-7260

イベントの、弓道体験コーナーで、初めて弓と矢に触れました。イベント向けの的が大きく、距離も近かったのですが、なかなか中らない…。その時の「悔しい」気持ち、弓道を始めるきっかけとなりました。

弓道を始めて3年目。いつもと同じ姿勢で弓を引いているつもりでもなかなか中らないものです。それだけに矢が的に中ったときの「パーン」という音を聞いた瞬間は、なんとも言えない気持ち良さを感じます。

弓道の礼儀作法を重んじる心を通して、「ありがとう」の言葉が増えた気がします。



小堀 昌幸さん
始めて3年目、
弐段になりました

「ありがとう」の言葉が増えた気がします



気付けば弓道を始めて36年—。大学生の時、部活動の紹介に興味を持ち、弓道部に入部したのが始めたきっかけ。大学卒業後も、練習場があるところを見つけて弓道を続けてきました。

的に中る矢は、スーッと一本の糸のように線を描き、的に向かい吸い込まれて飛んでいきます。そんな矢を射られたときは嬉しいですね。

武道交流館いきいきの弓道場では、17歳～80歳と幅広い年齢層の人が弓道を練習しています。「的に中ったか、はずれたか」と分かりやすいルールなので、初めて「見る人」も「する人」もみんなに楽しんでもらえると思います。



鎌田 妙子さん
名張弓道協会
会長

一本の糸のように線を描く矢に魅せられて

弓道で心身が鍛えられています

弓を引く姿がかっこいい…。そんな興味から、コロナ禍もきっかけになって、今年始めたところです。

弓道を始めてから、冷静さや判断力だったり、「心身」も鍛えられたおかげで積極的になり、学校では委員長を務め、自分から提案できるようになりました。

国体をきっかけに、名張市の若い人に、もっと弓道の魅力を知ってもらいたいです。



島田 瑞生さん
名張弓道場で
最年少の17歳

弓道のルール

和弓で矢を射て、的に中った本数や得点で勝敗を競います。いずれも3人1チームで行います。
●近的…28m先の的を狙い、的中した本数を競う
●遠的…60m先の的を狙い、得点(的の中心に近づくほど高得点)の合計点数を競う。

ここが見どころ!

入場から退場までの所作や弓を引く姿などは美しく、極めて静かな動作から放たれた矢が的中する瞬間は見応えがあります。

紙面では伝えきれないので…
動画で弓道の迫りに迫る!
広報担当者が体験!
市公式広報チャンネル

◎射法八節(射法の一連動作)

弓道は、弓を引き矢を放つまでの一連の動作が8つの行程で構成されています。この8つの行程を「射法八節」といいます。これら一つひとつの行程を丁寧にやらないと正確に的を射ることはできないそうです。



名張弓道協会(武道交流館いきいき(蔵持町里))では、未経験者・初心者を対象とし「弓道教室」を開催しています。ただし、次回開催時期は未定となっています。決定次第「広報なばり」でお知らせする予定です。◎詳しくは、協会の木村さんにお尋ねください。☎ 090-5256-9220